

証券コード：4406（東証スタンダード）

2025年3月期

決算説明会資料



2025年5月22日

代表取締役 社長執行役員
盛田 賀容子



Be the best **SPICE!**

- 2025年3月期 決算概要
- 2026年3月期 業績予想
- 中期経営計画（2021～2025年度）の進捗
- 参考資料



■ 2025年3月期の通期業績は**減収増益**

売上高

327 億円

前期実績 328 億円
△1.6 億円
(△0.5%) 

営業利益

8.2 億円

前期実績 3.6 億円
+4.6 億円
(+129.2%) 

当期純利益

5.2 億円

前期実績 2.2 億円
+3.0 億円
(+136.5%) 

オレオケミカル

環境

- | インバウンド消費による洗浄剤需要の増加
- | 原料相場は下期にかけ急騰

概況

- | 原料相場の変動に対応した適正価格での販売およびシェア堅持に努めた

可塑剤

環境

- | 海外市況の下落に伴い、国内に安価な海外品が流入
- | 主用途である建材の国内需要は低調に推移

概況

- | 海外品との価格競争激化により数量、売上高ともに前年を大きく下回る
- | 高耐候性を有する特殊可塑剤の販売が伸長

合成樹脂原料

環境

- | 中国の内需低迷による安価な中国品の輸出増からアジア市況が下落
- | 自動車向け原料需要が低迷したものの、電材向け需要は回復

概況

- | 中国向け販売の不振に加え、価格競争力の低下から輸出全体が低迷

機能性化学品

環境

- | 欧州でのポリオレフィン樹脂需要が好調に推移

概況

- | アジア向け医薬品原料の販売が増加
- | 主要輸出先である欧州の需要回復により、ポリオレフィン樹脂向け結晶核剤の販売が伸長し、数量、売上高ともに前年を上回る

2025年3月期 業績（連結）

- 売上高は前年並み、利益は前年を上回る
- 欧州を中心とした結晶核剤の需要回復や、医薬品原料などの高収益製品が伸長したことが収益を底上げ
- 収益を圧迫していた製品の統廃合や生産体制見直しが収益に寄与

（単位：百万円）

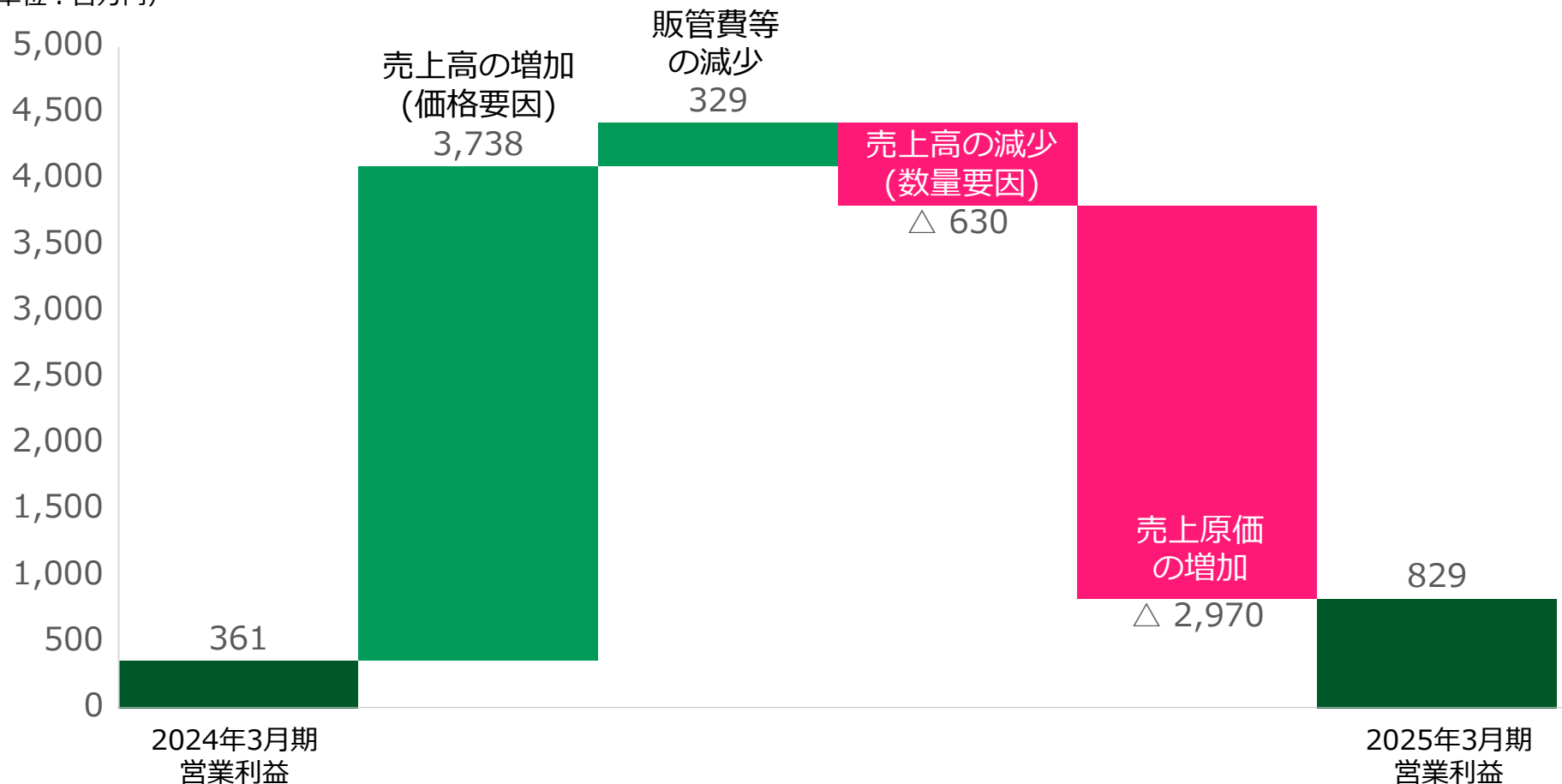
	2024年 3月期	2025年3月期			増減	
		当初計画	修正計画	実績	前年度比較	修正計画比較
売 上 高	32,863	33,000	33,000	32,703	△ 160	△ 296
営 業 利 益	361	500	750	829	+ 467	+ 79
経 常 利 益	780	800	900	1,195	+ 414	+ 295
親会社株主に帰属する 当期純利益	220	600	250	522	+ 301	+ 272
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	5.92円	16.09円	6.70円	14.00円	+ 8.08円	+ 7.30円
国産ナフサ（¥/KL）※ （1～3月平均）	72,500円	-	-	73,400円	+ 900円	-

※出展 財務省貿易統計

営業損益の増減要因（対前年度）

- 結晶核剤や医薬品原料、高耐候性可塑剤など、高機能・高収益製品の販売増加に加え、生産ロス低減の効果もあり、前年度を上回る営業利益を計上

（単位：百万円）



- 持分法による投資利益の計上などにより、営業外損益は+ 3 億 6 千 6 百万円
- 政策保有株式の売却、および堺工場の生産設備等の撤去・処分にかかる資産除去債務の計上などにより、特別損益は△ 4 億 7 千 2 百万円

(単位：百万円)

営 業 利 益	829
営 業 外 損 益	366
経 常 利 益	1,195
特 別 損 益	△472
法 人 税 等	155
非支配株主に帰属する 当期純利益	46
親会社株主に帰属する 当期純利益	522

(単位：百万円)

営 業 外 損 益	2024年3月期	2025年3月期	増減額
受 取 配 当 金	167	164	△ 2
持 分 法 投 資 利 益	228	392	+ 164
支 払 利 息	△ 47	△ 50	△ 2
そ の 他	70	△ 140	△ 211
合 計	418	366	△ 52

(単位：百万円)

特 別 損 益	2024年3月期	2025年3月期	増減額
投資有価証券売却益	221	271	+ 49
事業再編損	△ 229	-	229
減 損 損 失	△ 253	-	253
原 状 回 復 費 用	-	△ 744	△ 744
合 計	△ 260	△ 472	△ 211

■ 期末配当について

期末配当は1株当たり 4 円を予定しております。

	2024年 3月期	2025年3月期		増減	
		当初予想	実績	前年度比較	当初予想比較
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	220	600	522	+ 301	△ 77
期末配当金 (円)	0円	3円	4円	+ 4円	+ 1円

- 2025年3月期 決算概要
- 2026年3月期 業績予想
- 中期経営計画（2021～2025年度）の進捗
- 参考資料



環境予測

- 米国の相互関税引き上げによる米中対立や貿易摩擦の激化が懸念される
- 顧客企業における対米輸出の減速が当社製品の需要減少を招くことが危惧される
- 環境意識の高まりからバイオマス燃料材料としてのパーム油の需要が増加、油脂原料相場の上昇が想定される
- 国内可塑剤メーカーの設備老朽化と需要減による設備過剰から、生産集約が進む

事業戦略

- 既存品の収益拡大
 - ┃ 可塑剤など事業基盤を担う製品の安定生産・安定供給体制を確保
 - ┃ 高機能・高収益製品の新規顧客開拓
 - ┃ 原材料・エネルギー・労務費など各種コストの変動に応じた適正かつ機動的な価格設定
- 開発品の重点育成
 - ┃ バイオマス由来製品など環境貢献製品のラインナップ拡充
 - ┃ 有機EL材料をはじめとする電子材料向け酸無水物の開発を促進

2026年3月期 業績予想（連結）

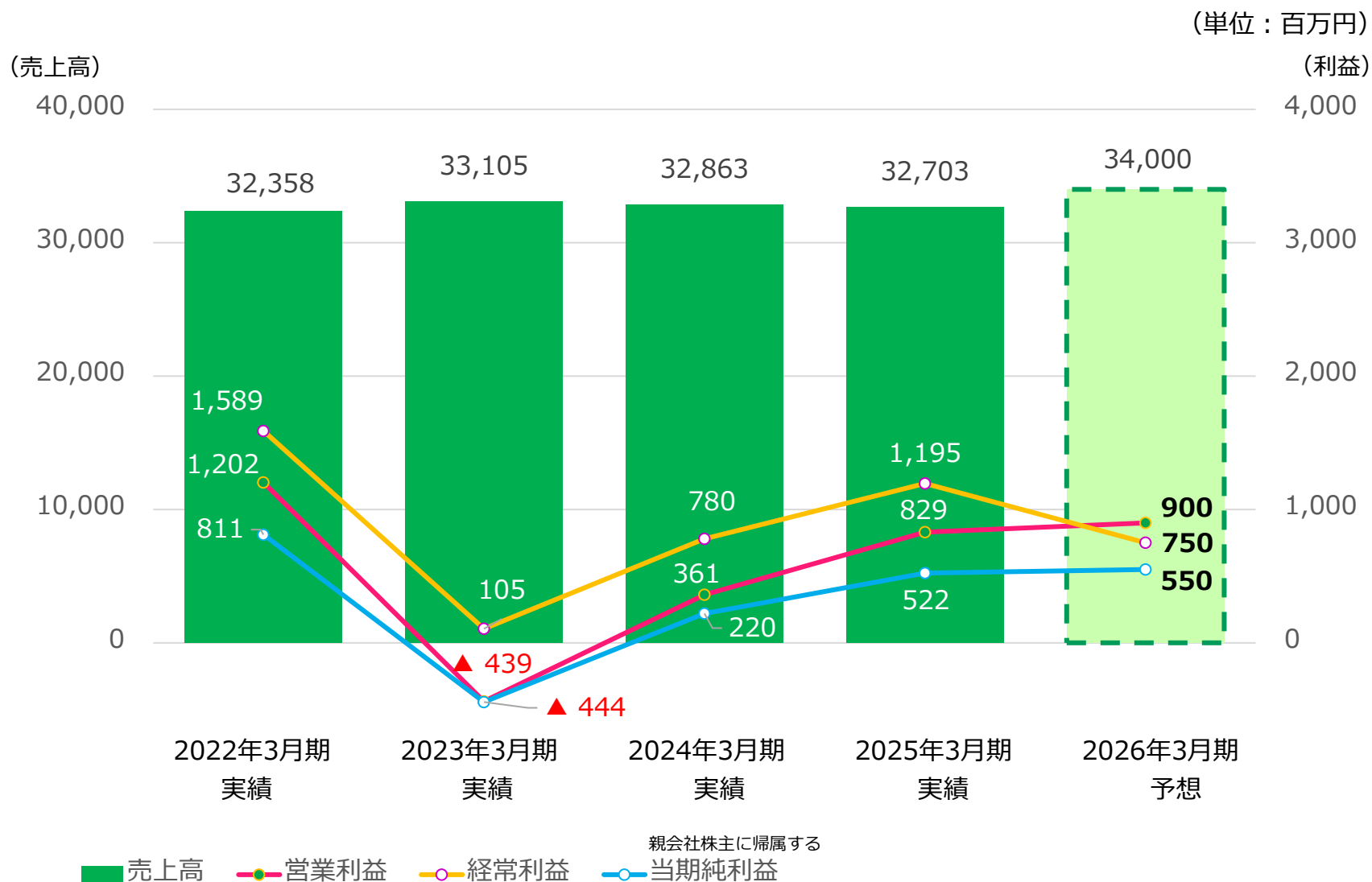
- 売上高340億円、営業利益 9 億円の増収減益を見込む
- 期末配当は1株当たり 4 円、配当性向は27.1%を予定

（単位：百万円）

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想	当期比較	
			増減額	増減率
売上高	32,703	34,000	+ 1,296	+ 4.0%
営業利益	829	900	+ 70	+ 8.6%
経常利益	1,195	750	△ 445	△ 37.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	522	550	+ 27	+ 5.3%
期末配当金（円）	4円	4円	-	-
配当性向（％）	28.6%	27.1%	△ 1.4 Point	-

2026年3月期 業績予想（連結）

■ 過去4年間の推移および2026年3月期の業績予想



- 2025年3月期 決算概要
- 2026年3月期 業績予想
- 中期経営計画（2021～2025年度）の進捗
- 参考資料



VISION 2030



Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二の個性をもった素材のスパイスで、
世界をより、健やかで豊かなものに、
毎日をもっと、心ときめくものに。

中期経営 計画 2021～ 2025

◆ 基本コンセプト

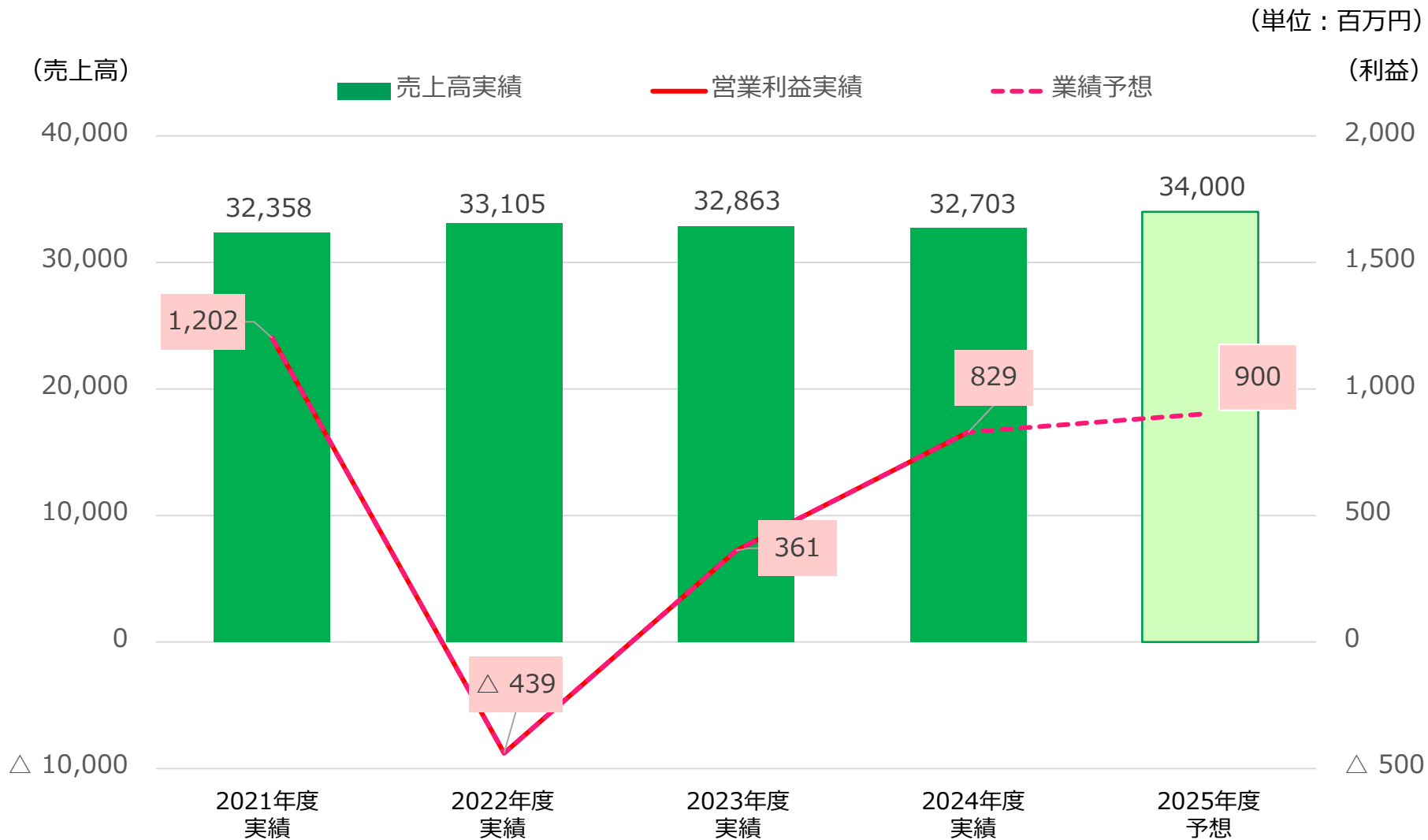
- | 環境・社会・人（命）に関わる課題に果敢にチャレンジし、
価値創造企業を目指す。
- | 情報・通信、モビリティ、ライフサイエンス、環境ソリューション
の4領域に経営資源を集中し、成長戦略を実現する。

◆ 経営目標（2025年度・連結） ※2024年6月修正

| 売上高：340億円 | 営業利益：8億円 | ROE：6.0%

2021～2024年度の業績推移

■ 2025年度の営業利益は、昨年発表の修正目標を上回る 9 億円を想定



稼ぐ力の再構築

既存事業のスクラップ＆ビルドと高付加価値製品へのシフト
徹底したコストダウン

- ｜ステアリン酸の生産を終了
- ｜製造の内製化/外製化の戦略見直しと生産拠点の最適化
（堺工場での可塑剤・酸無水物の生産終了と他工場への生産集約を含む）
- ｜ノンコア製品の製造・販売を終了、製品ラインナップの整理
- ｜環境価値を訴求できる製品の開発にリソースを集中投下
- ｜政策保有株式の縮減による資産効率の向上

技術革新による 競争優位の獲得

新R&Dセンターを拠点としたオープンイノベーション推進
DX推進による生産性向上

- ｜新研究所「京都R&Dセンター」の開設
- ｜他社（異業種含む）や大学との技術交流・共同研究開発の積極推進
- ｜事業戦略・開発戦略・知財戦略の三位一体化
- ｜生産現場主体のDXによる生産性向上とノウハウの確実な承継
- ｜社内サプライチェーン（受注-生産-検査-出荷）のデジタル化

CSRの推進

事業を通じて社会課題を解決するための仕組みづくり
天然素材・クリーンエネルギーの活用

- CSR委員会の設置、CSR報告書の発行開始
- 2050年度カーボンニュートラル達成に向けたロードマップ策定
- 一部工場にて再生可能エネルギーの調達を開始
- バイオマス由来製品の開発とラインナップ強化
- CSR調達基本方針の策定および「ホワイト物流」推進運動への賛同表明

組織再編と 人材育成の強化

組織のスリム化による意思決定の迅速化
D&I推進と誰もがチャレンジできる風土の醸成

- 機能別5本部と本部横断2組織（DX推進/CN推進）への再編
- 多様な人材の採用・登用
※キャリア採用者割合：44.3%、管理職に占める女性割合：9.9%
- チャレンジを促進する人事制度導入（年功要素削減、等級の役割明確化、挑戦の評価）
- 定期的な1on1による課題共有、エンゲージメントの定点観測

■ 製品分野ごとに、重点育成／収益拡大／構造転換の各施策を推進

	開発品の重点育成	既存品の収益拡大	構造転換
オレオ ケミカル	植物由来の化粧品素材 RiKANATURA®	海外グループ会社（台湾）との製造・販売面での連携強化	不採算品の 収益改善または 計画的廃止
可塑剤	バイオマス可塑剤 グリーンサイザー®	サプライチェーンマネジメント徹底で信頼獲得、国内シェア拡大	
合成樹脂 原料	電子材料・EV向け素材 リカシッド® TMEG	海外グループ会社（韓国）を拠点に、医薬・電子分野へ拡販	
機能性 化学品	樹脂の結晶化促進剤 RiKACRYSTA® 植物由来の潤滑油 エヌジェルブ®	海外グループ会社（欧州）を拠点に拡販、国内の増産体制を確保	

DX

生産DXの取組みを全工場へ展開中、定着化を推進

技術伝承のデジタル化

デジタル手順書を整備しオペレーターの教育に活用。文字では伝わりづらいノウハウを動画も使い明確化し次世代に継承していく。



生産データ活用による品質安定化

生産制御システムの収集データを活用し、常時の傾向管理と生産条件のブレを抑制することで工程品質を安定させる。

設備データの一元化

仕様やトラブル履歴、保全に関する計画と実績など、設備に関する情報を一元管理。DB化を進め、データ活用による保全強化を目指す。

知財力強化

IP Protect（リスク低減）とIP Forecast（知財発の未来予測）を両輪に推進

発明発掘と戦略的な特許出願

研究員が弁理士に相談できる「発明提案会」を定期開催。発明の発掘と権利化の工夫で事業を守り育てる。



開放特許の利活用

実施していない特許権を開放特許としてアピール。第三者へのライセンスや協業に繋げていく。



特許情報を起点にした開発

特許情報を分析し市場ニーズやトレンド、当社技術の相対的な位置付けを把握。製品開発に活かしていく。

CSR重要課題へのアプローチにより、持続可能な成長の基盤を固める

E（環境）

■ CN（カーボンニュートラル）の実現に向けた施策の実行

トレンド分析によるエネルギーロスの低減活動と、再生可能エネルギーの計画的調達により削減目標を達成する。

■ 環境負荷低減製品およびバイオマス由来製品群の拡充

新たなバイオマス由来製品の開発を進めるとともに、展示会への出展等により開発品の認知拡大をねらう。

S（社会）

■ サプライチェーン全体でCSR調達コミュニケーションを確立

CSR調達基本方針に基づき、サプライヤーとともにサプライチェーンの強靱化を進めていく。

G（ガバナンス）

■ リスクマネジメントサイクルに基づく重要リスクへの対応

事業継続の観点から特に重要と位置付けるリスク（原材料の調達困難・プラントの稼働停止等）について、重点的に対策を講じ、リスク低減を図る。





Be the best **SPICE!**

～心躍る極上のスパイスになる～

キラリと光る唯一無二のスパイスで、
世界を健やかで豊かなものに、毎日を心ときめくものにしたい。

もの創りの会社、新日本理化は、
これからも広く社会の発展に貢献してまいります。

本日は、ご清聴いただきありがとうございました。

【お問い合わせ先】

新日本理化学株式会社 経営企画部

<https://www.nj-chem.co.jp/>

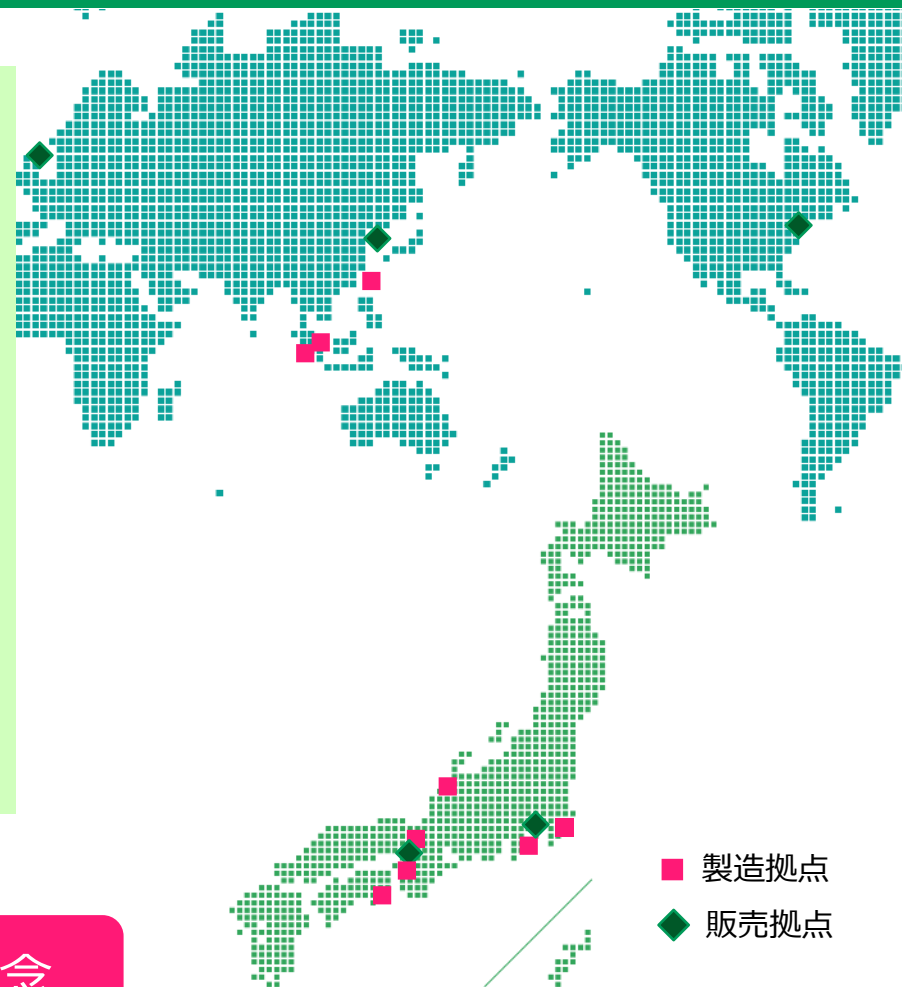


- 2025年3月期 決算概要
- 2026年3月期 業績予想
- 中期経営計画（2021～2025年度）の進捗
- 参考資料



新日本理化株式会社

- 創 業：1919年（大正8年）11月10日
- 資本金：5,660百万円
- 従業員数：413名（連結）[2025年3月末]
- 事業内容：化学製品の製造・販売
- 営業所：大阪（本社）、東京
- 工場：京都、徳島、川崎、堺
- 研究所：京都
- 関係会社：国内4社、海外6社

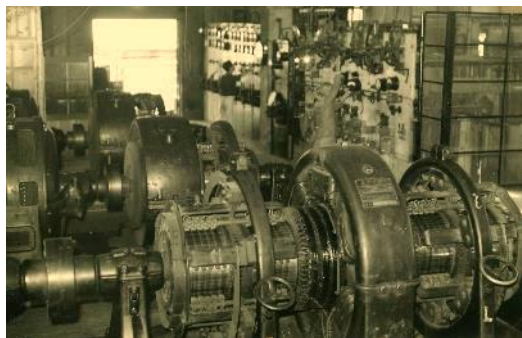


経営理念

私たち新日本理化グループは、もの創りを通して広く社会の発展に貢献します。

1920年

水の電気分解により製造した酸素ガスの販売を開始

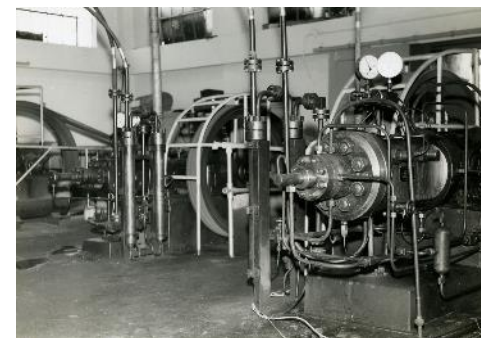


創業時の直流発電機

1951年

ヤシ油を水素化して高級アルコールを製造、可塑剤事業スタート

高級アルコール
製造設備



1961年

水素化技術を活用して無水コハク酸を製造（日本初）

1922年

魚油に水素を添加して硬化油を製造、今日につづく水素化技術の始まり



硬化油工場

1982年

ポリオレフィンの透明性を改良する結晶核剤を開発、機能性化学品事業に進出



ポリオレフィン製容器

2001年

HDDのモーター向けの潤滑油を開発



内臓HDD

2022年

結晶化速度を大幅に改善した結晶核剤
RiKACRYSTA®を発売



RiKACRYSTA

1993年

植物系（ヤシ油・パーム油）の不飽和アルコールを開発



パーム油

2021年

バイオマス可塑剤
グリーンサイザー®を開発、
バイオマスマークを取得



バイオマス
No.210315

バイオマスマーク

2019年
創業100周年

2023年

植物由来の化粧品素材
RiKANATURA®を開発

原料

天然油脂
(ヤシ油、パーム油)

製品分野（主な製品）

オレオケミカル

アルコール
界面活性剤

主な使用分野

トイレットリー



化粧品



石油由来原料
(ナフサから
得られる基礎化学品)

可塑剤

耐熱性可塑剤
耐放射線可塑剤

自動車



住宅設備



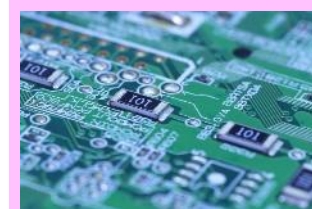
合成樹脂原料

ポリエステル原料
エポキシ樹脂硬化剤

医療器具



電子製品



機能性化学品

結晶核剤 潤滑油
ポリイミド

会社名	所在地	議決権所有割合	事業内容
日新理化株式会社	千葉県 市原市	新日本理化 100.0%	当社製品である可塑剤、界面活性剤の製造
アルベス株式会社	大阪府 大阪市	新日本理化 100.0%	- 業務用洗剤等の製造および販売 - 当社製品を含む化学製品等の仕入販売
日東化成工業株式会社	神奈川県 横浜市	新日本理化 55.0%	金属石鹼、塩化ビニル用安定剤等の製造および販売
NJC Korea Co., Ltd.	大韓民国	新日本理化 100.0%	当社製品の韓国向け販売

会社名	所在地	議決権所有割合	事業内容
Edenor Oleochemicals Rika(M)Sdn. Bhd.	マレーシア	新日本理化 25.0%	天然脂肪族アルコールの製造および販売
台湾新日化股份有限公司	台湾	新日本理化 43.7%	各種界面活性剤の製造および販売
NJC Europe Ltd.	イギリス	新日本理化 100.0%	当社製品を含む化学製品の販売
Nice Rika Biotechnologies Sdn. Bhd.	マレーシア	新日本理化 30.0%	界面活性剤の製造

- 流動資産：現預金および売掛金などが減少
- 流動負債：支払手形および買掛金などが減少
- 純資産：利益剰余金の増加などにより増加

(単位：百万円)

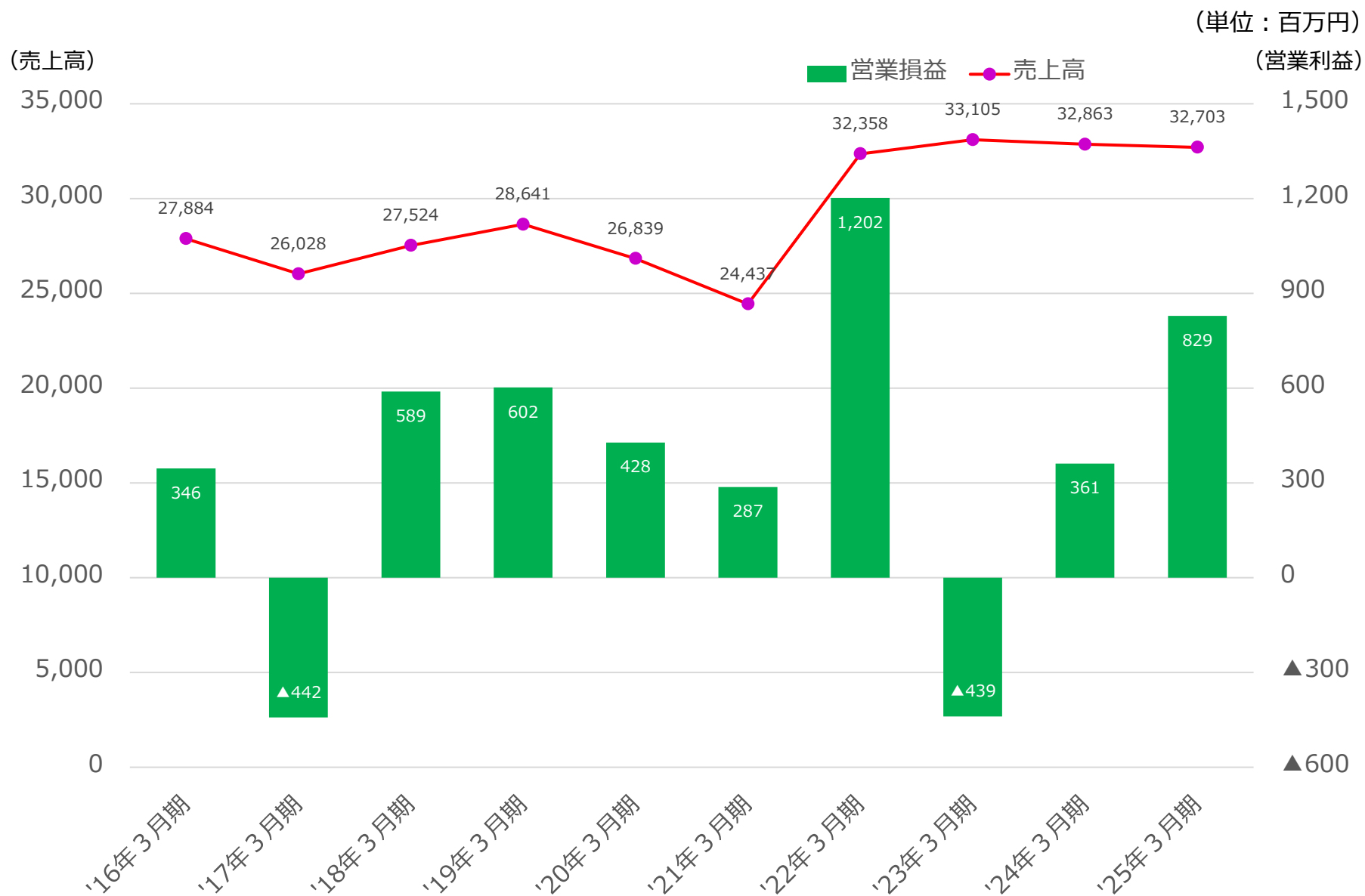
	2024年3月期	2025年3月期	増減額
総 資 産	40,114	37,519	△ 2,595
流 動 資 産	19,845	17,584	△ 2,260
固 定 資 産	20,268	19,934	△ 334
負 債	21,637	18,523	△ 3,114
流 動 負 債	12,837	9,076	△ 3,760
固 定 負 債	8,800	9,446	+ 645
純 資 産	18,476	18,995	+ 519
負 債 純 資 産 合 計	40,114	37,519	△ 2,595
自 己 資 本 比 率	43.1%	47.4%	+ 4.3 Point

- 現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ9億1千5百万円減少の27億8千万円
- 財務活動によるCFのマイナスの主な要因は、借入金の返済によるもの

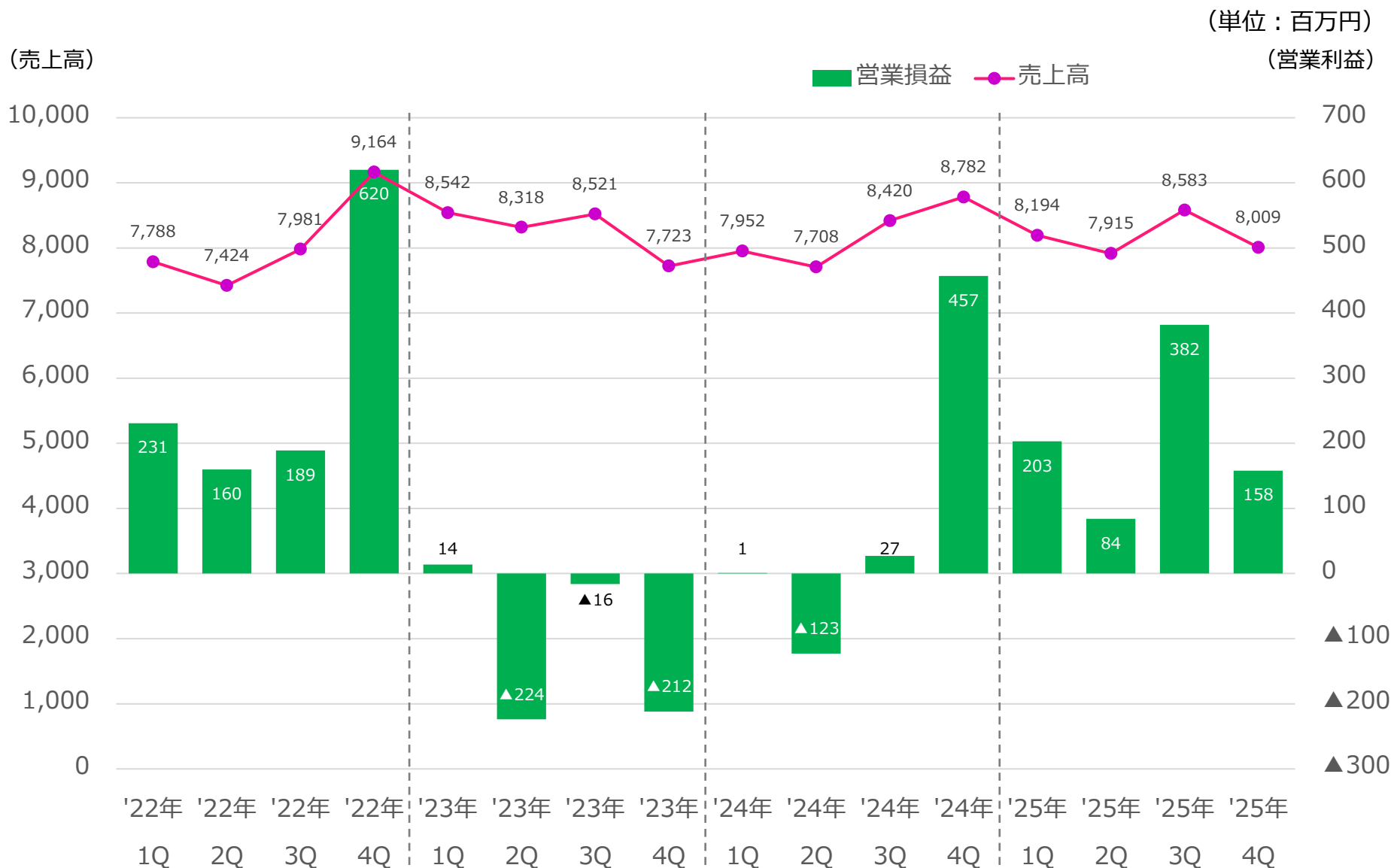
(単位：百万円)

	2024年3月期	2025年3月期
営業活動によるCF	3,578	△ 224
投資活動によるCF	△ 60	△ 174
財務活動によるCF	△ 2,596	△ 513
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	923	△ 915
現金及び現金同等物の期末残高	3,695	2,780

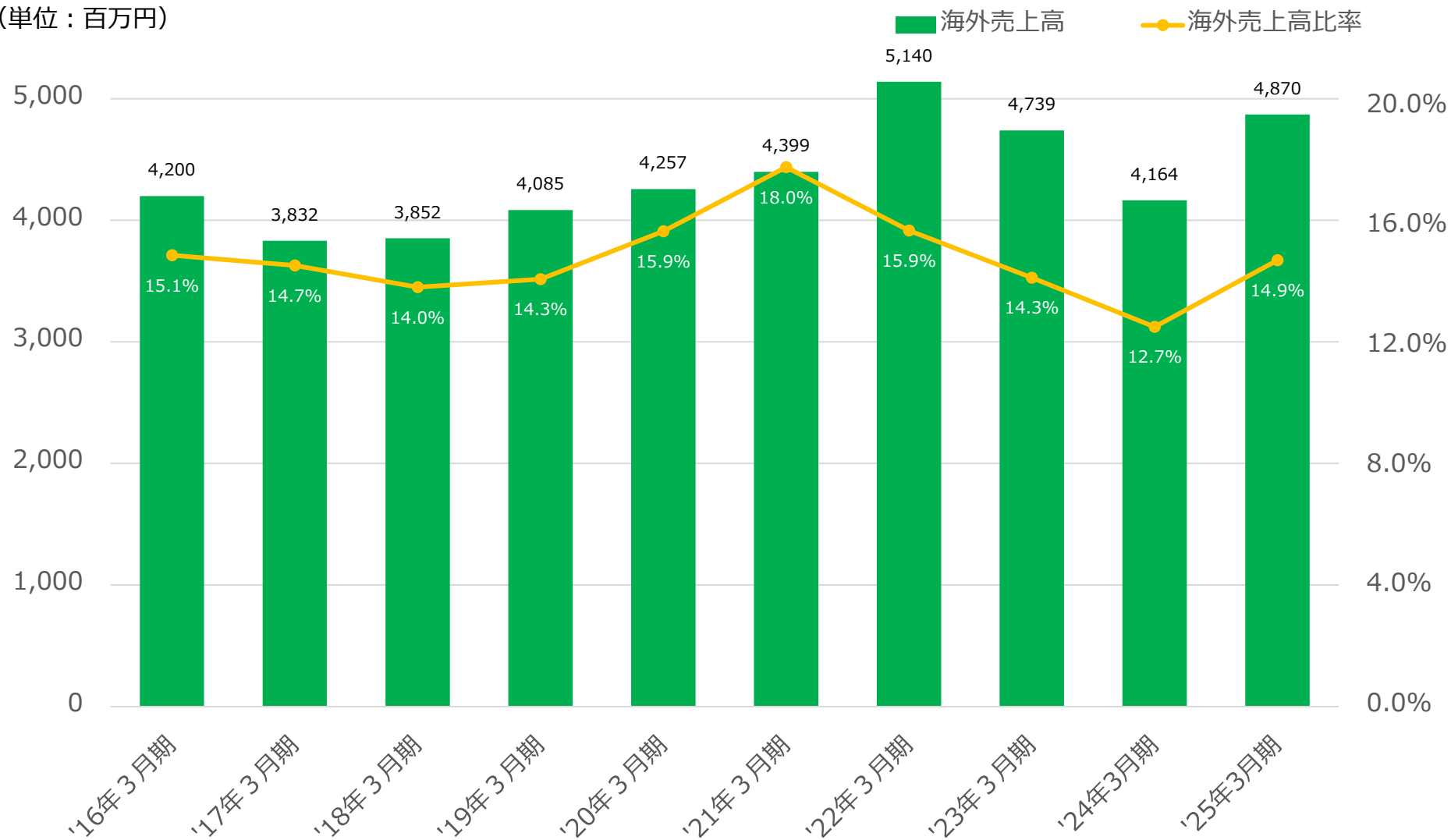
連結業績の推移



連結業績の推移（四半期）

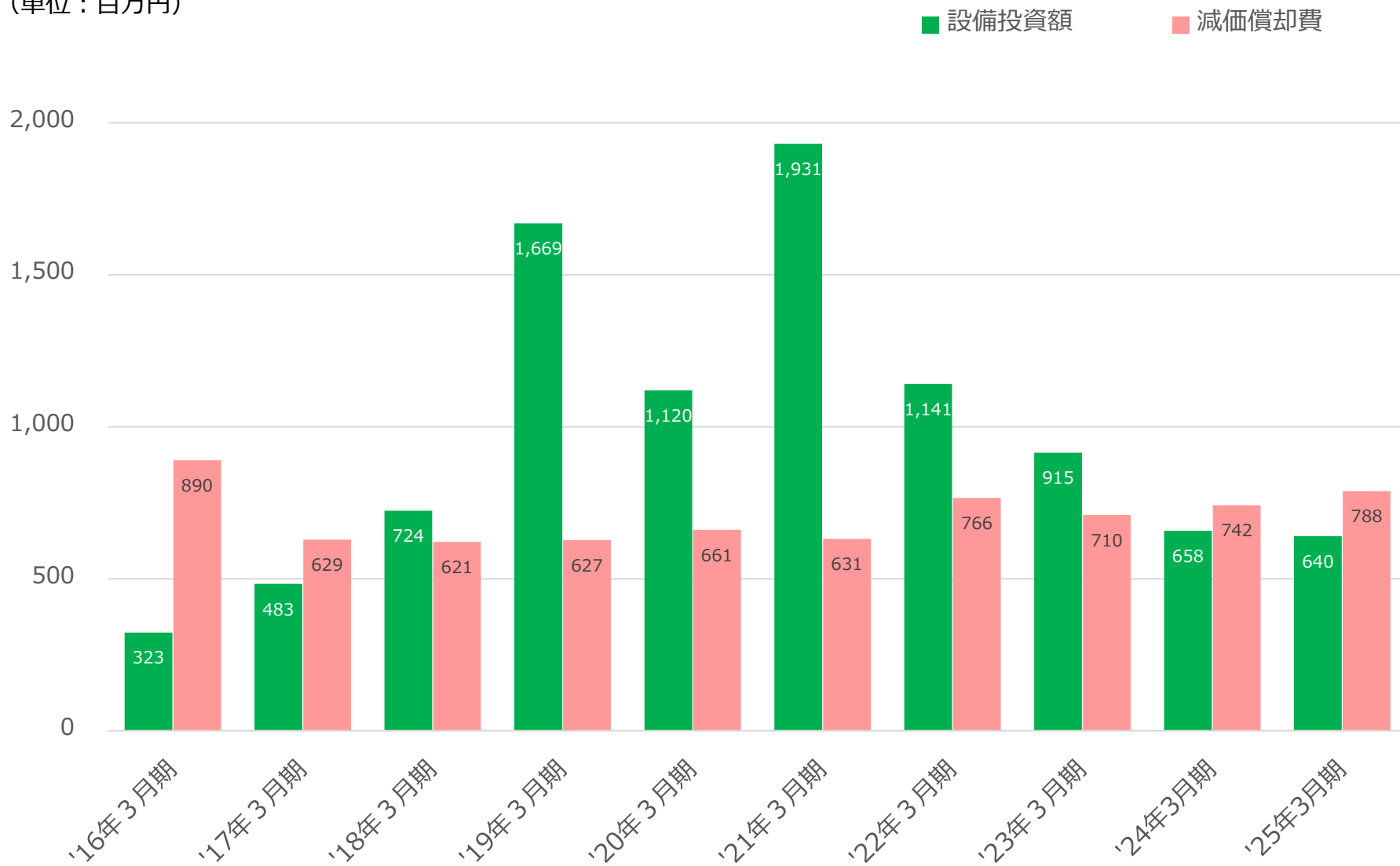


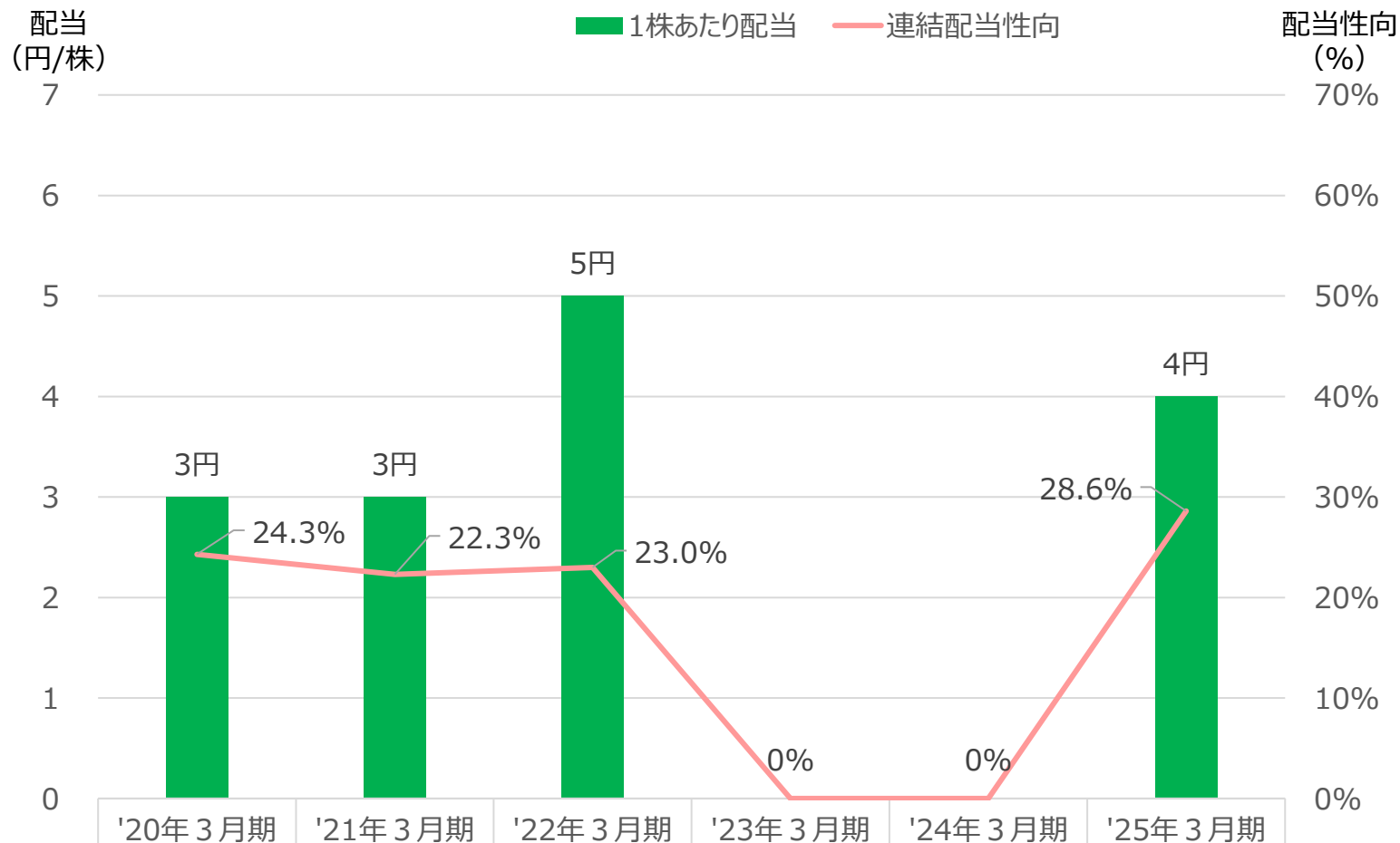
(単位：百万円)



設備投資と減価償却費の推移（連結）

（単位：百万円）





■ 1株あたり配当	3円	3円	5円	0円	0円	4円
— 連結配当性向	24.3%	22.3%	23.0%	—	—	28.6%

<見通しに関する注意事項>

- 本資料に記載されている業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- したがって、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



Be the best **SPICE!**